

全体

- 本年度より、道徳の授業研究にも取り組んだ。教科や行事等で得た伝統や文化に対する見方や考え方を深めたり、結びつけたりする時間の充実を図ることで、その価値や魅力により迫ることができるようになった。一方で、道徳の学習の中で見出した伝統や文化の価値を各教科等の体験的な学習に関連付けていくことで、実感を伴った理解にもつながり、より効果的に伝統や文化を尊重する態度の育成を進めることができるようになった。
- 昨年度の成果と課題を生かし、「授業研究部」「言語環境整備部」「調査・記録部」の3つの部でそれぞれに工夫・改善が図られ、学校教育全体で本研究の深化を図ることができた。
- 昨年度から実施している「きらめき☆ジャパネスク」を継続、または充実したことにより、伝統や文化への関心が全体的に高まってきている。さらに、学校や地域を飛び出して伝統や文化を自分で見つける活動を設定したことによって、さらに広い地域の伝統や文化に目を向けていく姿勢や日本のよさを自分なりに考えてみる姿勢をはぐくむことができた。
- 「きらめき☆ジャパネスク」の開催や学校広報などを通して、本研究を広報したことにより、地域や保護者に取り組むについての理解、関心を得ることができた。
- 「きらめき☆ジャパネスク」等、今後も伝統や文化に直にふれる機会の充実を図るが、授業時間の確保や行事等との兼ね合いも考慮しながら、軽重をつけたり実施時期を吟味したりして持続可能なものにしていく工夫を図りたい。
- 伝統や文化に実際にふれたり感じたりするためには、場を設定するとともに講師の確保も必要となる。今後も地域若しくは近隣の人材探しを継続し、本物にふれる時間を多く設定していきたい。

授業研究部

- 国語の「伝統的な言語文化」（光村・教出）の系統表や道徳の「郷土愛」「伝統や文化」に関係する系統表を作成したことにより、他教科や行事との本時までの関連や本時からのつながりが分かりやすくなった。そして、つながりを意識して授業を計画、展開することができるようにした。
- 本年度より、道徳も研修することになり、道徳の指導案や紀要のまとめの形式を統一した。そのため、各ブロックの共通理解が図られ、円滑に進めることができた。
- 手立てを授業導入部分の「出会い方の工夫」、展開部分の「深める工夫」、終末の「親しむ工夫」の3つに分け設定した。そのことで、授業のどの部分でどんな手立てを行っていくのかより明確にできた。
- 道徳の授業を進めるにあたり、年度当初に「本校の伝統や文化」についてまとめたものを作成しておくことで、児童が「伝統や文化」をイメージしやすく、また教員の共通理解も図ることができたのではないだろうか。

言語環境整備部

- 「きらめき☆ジャパネスク」の掲示物を作成、掲示した。また、昨年度より行っている伝統的な言語文化に関する掲示（ことわざ、こよみ、季節の俳句など）の充実を図った。学校内の様々な場所に伝統や文化に関する掲示が充実したことで、自然に目にする状況が整い、関心をより高めることができた。
- 国語の授業実践の中において児童が作成した俳句や俳句に関するクイズを掲示した。掲示された通路を通りながら楽しく伝統的な言語文化について学ぶ様子が見られた。
- 月一回の昔話のDVD視聴と伝統文化コーナーをリンクさせ、放送された絵本の紹介や似た内容の絵本の展示を行った。図書室に赴いた際には、「これ前に見たお話だ。読んでみようかな。」などの声が聞かれた。
- 今後は掲示だけでなく、人形や陶器、着物など実際に手で触れながら伝統を感じるような展示なども検討していきたい。

調査・記録部

- 昨年度のアンケートを精査したことによって、児童の意識をより焦点化して把握することができた。
- 2年間継続し関心意欲を調査したことにより、児童の意識の変容をみとることができた。
- 日本のよさについて記述式にして調査したことにより、児童の伝統に対する意識の広がりをとらえることができた。
- 同じ学年の変容を把握することはできたが、全学年のつながりを系統的にみとっていく必要がある。